

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	井上 靖章
論文担当者	主査 朝倉 正紀
	副査 石原 正治
	副査 富田 寿彦
学位論文名	Impact of dehydration on endovascular treatment in patients with acute ischemic stroke due to large vessel occlusion (大血管閉塞による急性期虚血性脳卒中患者における血管内治療に対する脱水の影響)
<p style="text-align: center;">論文審査の結果の要旨</p> <p>本研究は、大血管閉塞（LVO）を伴う急性期虚血性脳卒中患者において、予後に悪影響を及ぼす可能性があると考えられる脱水が血管内治療（EVT）の効果に与える影響を検討したものである。</p> <p>本研究の対象集団は、日本全国46施設から登録されたRESCUE-Japan Registry 2の2408例のLVO患者である。脱水は、血中尿素窒素／クレアチニン比（BUN/Cr）値を指標に、男性は25以上、女性は31.25以上と定義した。主要評価項目は、日常生活を自立して行える状態を示す発症90日後のmodified Rankinスケール（mRS）0-2を設定した。</p> <p>解析対象となった2364名中、脱水患者は17.0%であった。脱水群は非脱水群に比して、高齢で、mRSが低く、NIHSSスコアが高く、全身の状態が悪い傾向を認めた。EVT施行群における発症90日後mRS 0-2達成の調整オッズ比は、脱水群で2.25、非脱水群で1.94であり、EVTの効果に対する脱水の交互作用は有意ではなかった（interaction p=0.78）。副次評価項目においては主要評価項目と同等の結果であった。安全性に関しては、脱水群ではEVTによる頭蓋内出血（ICH）の発生率に差はなかったが、非脱水群ではEVT群のICH発生率が高かった（27.4% vs 18.7%）。</p> <p>本研究の結論として、脱水は、LVO患者に比較的高頻度に認められ、予後不良と関連していた。しかし脱水がEVTの有効性には影響しないことが明らかとなり、EVTは脱水例においても有効である可能性が示唆された。</p> <p>本研究は、生命予後に大きく影響する大血管閉塞を伴う急性期虚血性脳卒中患者に対するEVT治療における重要な研究成果を示しており、学位授与に値すると評価した。</p>	